

モンゴル国におけるナショナル・アイデンティティの経時的変化

——第2回・第3回・第4回アジアン・バロメータ調査データ分析による検討——

高知大学

湊邦生

1 目的

この報告の目的は、(ポスト・)ポスト社会主義の1つである1モンゴル国(以下「モンゴル」)において「普通の」人々が自国に対して抱く意識について、2000年代後半から2010年前半にかけてどう変化してきたのか、国際調査データの分析から把握することを試みるものである。

2 方法

今回は東アジア・東南アジアの各国・地域を対象とする「アジアン・バロメータ」調査プロジェクトの第2回から第4回までのデータを利用した。分析は自国の生活様式の保持、自国への無条件の忠誠、ナショナル・プライド、他国への移住意思という4つの意識項目について行った。ただし、第4回調査データは現時点で4ヶ国・地域のみで公開であり、国際比較は行い難い。そこで、今回は調査ごとに、分布の確認や4項目間および他の項目との関連を分析した。

3 結果

分析結果の要点は以下の3つである。(1)上記4項目のうちナショナル・プライドの高さはどの調査でも共通する。(2)上記4項目の間で、3回の調査で一貫した相関を示す組み合わせは1つしかなく、むしろ時期により正負が逆転する例もある。(3)上記4項目と他の項目との間で、3回の調査を通じて有意な関連を有するものはなく、こちらもデータ間で関連の正負が逆転するものが存在する。

4 結論

以上の結果は、湊(2015)が示したナショナル・アイデンティティの関連構造の不安定さがその後も継続していることを示唆する。背景として、モンゴルにおいて人々の意識を分ける「対立軸」が見出しにくく、むしろ時々の情勢に人々の意識が左右されやすいことが考えられる。

Acknowledgement

Data analyzed in this presentation were collected by the Asian Barometer Project (2005-2008, 2010-2012, and 2013-2016), which was co-directed by Professors Fu Hu and Yun-han Chu and received major funding support from Taiwan's Ministry of Education, Academia Sinica and National Taiwan University. The Asian Barometer Project Office (www.asianbarometer.org) is solely responsible for the data distribution. The author appreciates the assistance in providing data by the institutes and individuals aforementioned. The views expressed herein are the author's own.

文献

湊邦生, 2015, 「モンゴル国におけるナショナル・アイデンティティの計量的検討: 第2回・第3回アジアン・バロメータのデータ分析から」 『立命館産業社会論集』 50(4) 75-92